

第3次小田原市環境基本計画

令和4年度～令和12年度

概要版



森里川海の恵みを未来へ継承する
持続可能な環境共生都市 小田原



令和4年7月

小田原市

環境を取り巻く社会情勢

世界・国の主な動向

- ・ 持続可能な開発目標（SDGs）の採択
- ・ 国による第五次環境基本計画の策定
- ・ 地球温暖化防止のため脱炭素社会の実現
- ・ 海洋プラスチックごみの問題

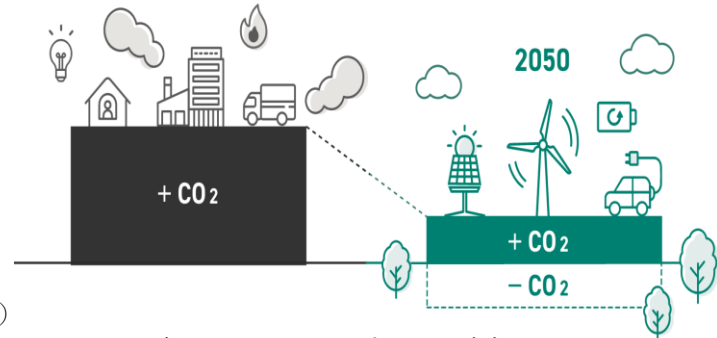
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs 持続可能な社会の実現のための17の目標

小田原市の動向

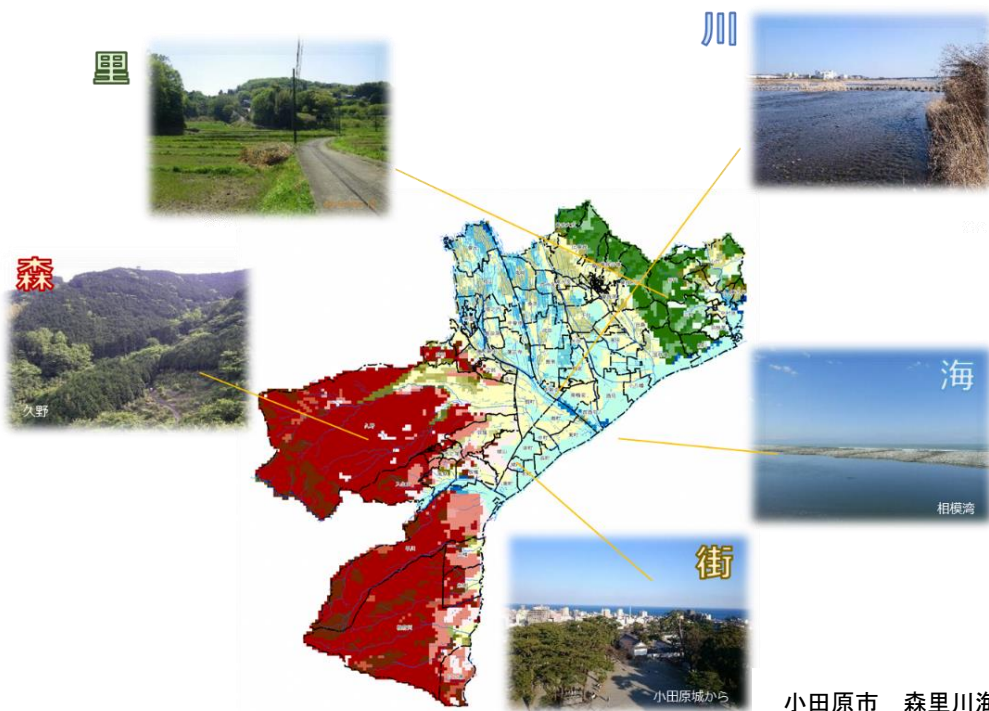
- ・ 地域循環共生圏づくりプラットフォーム団体に選定 (令和元年5月)
- ・ SDGs 未来都市、モデル地域に選定 (令和元年7月)
- ・ 2050年ゼロカーボンシティを表明 (令和元年11月)
- ・ 小田原・箱根気候変動ワナチーム宣言 (令和2年10月)
- ・ 県西地域2市8町プラごみゼロ共同宣言 (令和4年2月)



自然環境の特徴～「ひとつらなり」となった森里川海と街～

本市は相模湾に面し、沖を流れる黒潮の影響を受けて温暖な気候条件を有しています。年平均気温は摂氏16度程度で、夏は東京よりも涼しく、冬は東京よりも暖かい傾向にあります。背後に箱根外輪山などの高い山々をひかえているため、南からの湿った大気が上昇気流となり、年間2,000mm程度の降水量があります。

首都圏でありながら、コンパクトに森里川海が「ひとつらなり」となった豊かな自然環境があり、その恵みが受け継がれ、人々の生活・文化・なりわいが成り立っています。



小田原市 森里川海と街の分布

第 3 次 小 田 原 市 環 境 基 本 計 画 と は

これまでの環境に対する取組や現代の社会情勢を踏まえ、本市の将来都市像である「世界が憧れるまち「小田原」」や、まちづくりの目標の一つである「豊かな環境の継承」の実現に向けて、今後の環境行政を総合的かつ計画的に推進していくことを目的に策定するものです。

計 画 期 間

令和 4（2022）年度～令和 12（2030）年度 < 9 年間 >

計 画 の 範 囲

分野的な範囲



空間的な範囲



望 ま し い 環 境 像

森里川海の恵みを未来へ継承する

持続可能な環境共生都市 小田原

将来にわたってすべての人々が幸福に暮らしていくために、豊かな自然環境を確実に引き継いでいくこと（未来への継承）が、現代を生きる私たちの責務です。

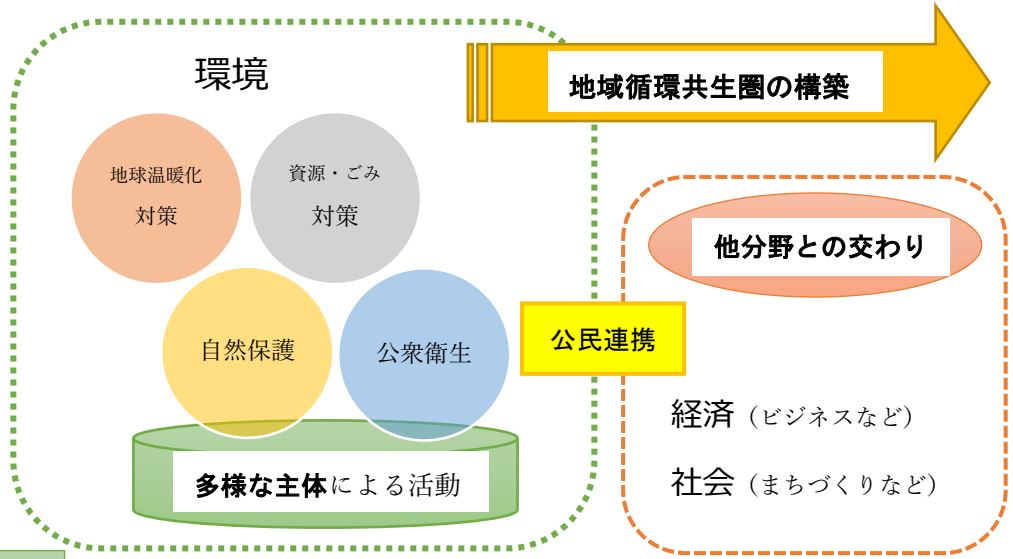
気候変動など、激変する地球環境に対処しながら、人々と環境が対峙するのではなく、共に生きていくよう、持続可能な環境共生社会の実現を目指していく必要があります。SDGs の考え方を踏まえ、豊かな環境を継承していくための行動を、生活の質の向上、地域経済の好循環に繋げることで、環境・経済・社会のマルチベネフィットを生み出し、人々の幸福に繋げるとともに、豊かな環境を持続的に受け継いでいきます。

これまでの我慢による環境行動を超えて、知らず知らずのうちに環境保全に貢献している社会、安心・便利・快適を向上させながら、すべての人々が環境と共生できる社会、我慢を強いられる、または強いられていると感じることのない社会の実現を目指します。

取組の方向性

地球温暖化対策、資源・ごみ（廃棄物）対策、自然保護、公衆衛生の4分野において、これまでの取組から今後の課題を解決するとともに、社会情勢に応じた先進的な取組を進めるものとします。また、これまで培ってきた市民力をさらに伸ばし、各分野で多様な主体の活躍を推進していきます。

将来にわたって持続可能な取組と
するため、あらゆる地域資源を有効
活用する地域循環共生圏の構築の考
え方を取り入れ、環境活動だけでは
なく、公民連携による経済活動や社
会活動につながる取組となるよう、
積極的に他分野と交わりながら進
めていきます。



多様な主体

市民、事業者、団体、行政をはじめ、市内外問わず、関係人口も含めたあらゆる主体。

地域循環共生圏の構築 「小田原版 地域循環共生圏の構築」

本市における地域課題を、経済性を伴った魅力あるコンテンツに転換する取組や社会性のあるまちづくりに資する取組を増やしていくことで、より多くの人と資金が環境保全に流れ込み、豊かな環境を持続的に受け継いでいけるとともに、地域全体の発展に繋がります。

このような取組を通じて、小田原の地域資源を守り育てるとともに、生かしていくことで、小田原版の地域循環共生圏の構築を目指します。



他分野との交わり

環境に関する取組については、今後、経済や社会における、あらゆる分野と積極的に連携することで、各分野においても効果のあるものとする必要があります。

他分野との連携による相乗効果により、環境の取組がすべての市民にとって身近なものとなり、より持続可能なものとなるよう進めていきます。

環境 ×

- 観光
- 産業
- 交通
- 教育
- 子育て
- 防災
- デジタル
- 福祉
- 健康
- 楽しみ
- など

望ましい環境像を実現するための6つの施策

共通施策

1 地域循環共生圏の構築 2 多様な主体の育成・活躍の推進

分野別施策

3 脱炭素 4 資源循環 5 自然共生 6 生活環境保全

施策1 地域循環共生圏の構築



目標 地域循環共生圏の構築を目指し、課題の価値化や人と資金の循環創出を進めます。

2030年に目指す姿

- ◇豊かな自然環境の恵みである地域資源やその魅力が市内外の人々に伝わっている。
- ◇市民のみならず首都圏等から多くの方が関わり、課題だったものに価値を見出し、公民連携による多種多様な体験コンテンツや産品が創出されている。
- ◇多くの方が小田原の森里川海に触れる体験をしている。



森里川海を感じるサイクリングツアー

取組1 環境資源の魅力発信

- ・森里川海ブランドの確立
- ・観光、農業、林業、漁業、広報等との連携
- ・地域資源を生かしたコンテンツ創出

取組2 先導的事業の推進

- ・環境保全活動に係るプラットフォーム機能の強化
- ・環境課題への対応（荒廃竹林解消、獣害対策）



荒廃竹林の解消に係る取組

施策2 多様な主体の育成・活躍の推進



目標 豊かな環境を継承するため、多様な主体による参加と協働、人づくりを進めます。

2030年に目指す姿

- ◇多くの市民が小田原の豊かな自然環境に愛着と誇りを持ち、いつまでも守り引き継いでいきたいと思っている。
- ◇環境について日頃から話題となっており、環境に関わる行動を起こそうとすると、身近に相談したり参加したりできる場所があり、誰でも気軽に参加することができるようになっている。
- ◇森里川海の多様な自然空間が有効に活用され、子どもたちがより多くの環境フィールドで学ぶ機会を得ている。

取組 環境学習・環境活動の推進

- ・市民による環境学習・活動推進
- ・環境団体等への活動支援
- ・情報提供や共有
- ・森林環境教育・木育



夏休み環境講座

施策3 脱炭素



目標 脱炭素社会の実現に向けて、地域社会と暮らしの転換を図ります。

2030年に目指す姿

- ◇二酸化炭素を排出しない電気を自ら作り使うことが当たり前になっている。
- ◇省エネルギーへの意識が一人ひとりに芽生え、省エネルギーの行動がいつのまにか地域の経済に貢献をしたり、環境に配慮した行動を心掛ける生活が当たり前になっている。
- ◇各家庭に太陽光発電設備と蓄電池が設置されはじめている。
- ◇外出時の移動手段には、電気自動車のカーシェアリングが利用されるようになっている。
- ◇気候変動による災害の発生や気温の上昇に備え、普段から防災対策や熱中症予防などに取り組んでいる。

取組1 地球温暖化対策の推進

- ・市民や事業者等における地球温暖化対策の促進
- ・地球温暖化対策に資する設備導入に対する支援

取組2 エネルギーの地域自給の推進

- ・再生可能エネルギー設備導入に対する支援
- ・「ゼロカーボン・デジタルタウン」の創造
- ・地域マイクログリッドを通じた先進技術の実装
- ・公共施設への環境に配慮した整備の検討



カーシェアリングで使用している電気自動車

施策4 資源循環



目標 5Rを推進するとともに、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行を進め、省資源・循環型社会の構築を目指します。

2030年に目指す姿

- ◇ごみの減量化、資源化などの環境問題に関心を持ち、市民一人ひとりが自分の問題として捉え、行動している。
- ◇日常生活のあらゆる場面で、食品ロスやプラスチックごみの排出を減らすことを心掛け、どうしても出してしまうごみは、適正な分別を実施しリサイクルに貢献している。
- ◇二酸化炭素の排出量を抑え、資源が無駄なく循環する仕組みの整備が進んでいる。

取組1 ごみの減量化・資源化の推進

- ・食品ロスの削減
- ・プラスチックごみの削減や資源化
- ・生ごみの資源化
- ・剪定枝の資源化
- ・紙布類の分別徹底

取組2 ごみの適正処理

- ・ごみ収集・運搬業務執行体制の改善
- ・大型ごみの収集受付のデジタル化検討
- ・焼却施設の管理運営や修繕、今後のあり方検討
- ・リサイクル施設などの管理運営、修繕

マイボトル利用促進のためのウォーターサーバーの設置



食品ロス削減講演会

施策5 自然共生



目標

自然と共生する暮らしを次世代に引き継ぐため、森里川海がひとつらなりになった自然環境を保全・活用します。

2030年に目指す姿

- ◇森では、様々な樹木が育ち、多様な生物が育む場所として維持管理され、緑が生い茂っている。
- ◇里では、野生動物による被害や大型鳥獣の出没が減少するほか、メダカの生息環境が保全されている。
- ◇川では、きれいに澄んだ水流に様々な生き物が生息し、子どもたちが水遊びにいそしんでいる。
- ◇海では、森や川から適切に栄養が運ばれ、小田原近海が豊かで漁業が成り立つ環境が保たれている。
- ◇小田原の豊かな自然環境の魅力を広く伝え、森里川海を守り育てていくための体制づくりが進んでいる。



アユの放流体験

取組1 生態系の維持保全

- ・ニホンザルやイノシシ、ニホンジカ等の有害鳥獣対策
- ・自然環境モニタリング調査等の実施
- ・メダカやコアジサシの保護や啓発活動

取組2 森里川海の保全・活用

- ・おだわら森林ビジョンに基づく施策の推進・森林整備
- ・小田原産木材の活用（学校木の空間づくり事業）
- ・農業振興地域の管理
- ・農道・用排水路整備・維持管理
- ・耕作放棄地の予防対策
- ・農業の生産振興（環境保全型農業の推進）
- ・酒匂川水系フィールド体験
- ・河川の水質・動植物調査
- ・多自然水路の整備・保全
- ・稚魚・稚貝の放流支援・藻場礁設置支援
- ・小田原漁港の整備促進

施策6 生活環境保全



目標

一人ひとりが安心して快適に暮らせるまちを目指し、良好な生活環境を守ります。

2030年に目指す姿

- ◇まちなかにおける街路樹の整備などにより、緑豊かな環境が生み出されている。
- ◇安心して利用できる魅力ある公園の整備や管理に地域と連携した取組が行われている。
- ◇一人ひとりの環境美化意識が一層高まり、道路など公共の場がきれいな状態に保たれ、快適な生活が送られるとともに、来訪者にとっても気持ちの良いまちになっている。



ボランティアによる美化清掃

取組1 快適な街の維持保全

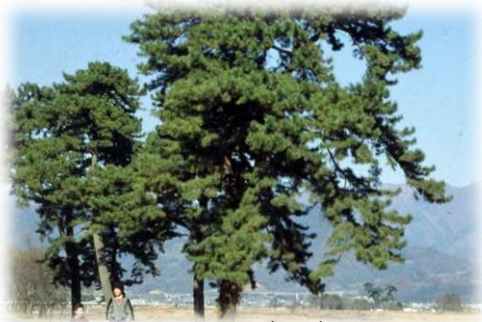
- ・街区公園・街路樹の再整備
- ・民有地や公共空間の緑化支援
- ・保存樹・保存樹林奨励金の交付や標識設置
- ・景観形成修景費の補助

取組2 美化の推進と衛生環境の保持

- ・環境美化推進員の育成
- ・ボランティア清掃をする方へのごみ袋の配布
- ・環境美化促進重点区域の喫煙所の管理
- ・犬・猫飼い方マナーの周知や野良猫の去勢・不妊手術費補助金の交付

取組3 公害対策

- ・河川・地下水等の水質調査
- ・自動車騒音調査等の環境調査



市の木 くろまつ



市の花 うめ



市の鳥 コアジサシ



市の魚（淡水魚） メダカ



市の魚（海水魚） アジ



小田原市

第3次小田原市環境基本計画 **概要版**

令和4年7月発行

小田原市環境部環境政策課

〒250-8555

神奈川県小田原市荻窪300 番地

電話0465(33)1473 FAX 0465(33)1487

計画本編はこちら（小田原市ホームページ）

[https://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/envi/environ/
plan/envi-2022.html](https://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/envi/environ/plan/envi-2022.html)

